

M&A専門誌

Mergers & Acquisitions
Research Report

MARR マール

2008 April 4月号

発行人 高橋 豊
Yutaka Takahashi

編集長 川端 久雄
Hisao Kawabata

制作進行 加藤 順子
Junko Kato

表紙写真 十文字 美信
Bishin Jumonji

アート
ディレクション 石崎 路浩
Michihiro Ishizaki

デザイン 斎藤 圭太
Keita Saito

本文写真 福本 敏雄
Toshio Fukumoto

印刷 三松堂印刷株式会社

発行所：株式会社レコフ

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-1-1

麹町ダイヤモンドビル

TEL.03-3221-4942

2008年4月1日発行 通巻162号

雑誌18321-04

定価2,310円 本体2,200円

RECOF

編集室から

BOOK

『日本的雇用慣行——全体像構築の試み』

野村正實著

ミネルヴァ書房

4800円（本体）



会社の経営は、資本と労働によって成り立っている。資本について解説する本はたくさんあるが、労働となるとどうだろう。マルクス主義が華やかになりし頃は、労働問題の研究も多く、著名な学者もいたが、最近は影が薄い。人的資産の価値が見直され、働く者と会社の関係が大きく変化している今こそ、本書のような体系的な研究書が求められている。

ここでは、会社と従業員の関係、即ち会社の人的側面を包括的にとらえる言葉として「雇用慣行」という言葉が使われる。採用や退職がどう行われ、賃金はどんな仕組みで払われているか、労働組合の性格は何か。労働面からみた日本資本主義論が展開されている。

日本の労働研究家は、これまで製造業の男性肉体労働者、即ちブルーカラーを対象に研究をしてきた。ここから終身雇用や年功制という日本の経営の特徴が発見された。しかし、男性社員（ホワイトカラー）や女性のことは抜け落ちていた。こうした研究の欠陥を指摘し、戦前に溯ってホワイトカラーや女性の姿を実証的に明らかにしている。大会社のすべての正規従業員を対象に全体像を明らかにする試みとしては最初の研究と自負している。

戦前の日本の会社秩序の本質は、学歴と性別で仕切られた会社身分制であった。男性社員、男性準社員、男性職工、女性の四つの世界に仕切られていた。労働の対価も社員は月給制で俸給、職工は日給制で賃金と呼び、待遇に大きな格差があった。戦後、身分は社員、労働対価は賃金に一元化し、会社身分制はなくなったように思われたが、実は資格制度と呼ばれる社員の格付け制度が復活し、実質的に継続しているという。大会社では社員は学歴に応じ、入社と同時に資格が決まり、細分化された出世の階段を上る。賃金も年功的昇進である。戦前の会社身分制に光をあて、資格制度をその延長とみるところに発見がある。

会社身分制からなる経営秩序を支えている基盤が日本人の永年勤続の価値観だという。立派な会社と立派な従業員は永続的な関係を結ぶべきだという価値観である。近世の藩主と武士、商家と使用人の関係を律する価値観を引き継いでいる。恩顧と忠誠の関係であり、恩顧は会社の「老婆心」として賃金や福利厚生面などで今も従業員に示されているという。

バブル崩壊後の経済不況の中、日本的雇用慣行の中核である終身雇用や年功制は、過去のものになったといわれるが、著者は、どちらも終わっていないという。例えば、成果主義賃金をみても、実態は日本的に修正しながら運用されているという。では、今後はどうか。経済状況の中で大会社の中核となる男性正規従業員数は変動することがあっても、日本的雇用慣行はこれからも持続するとみる。ひとつび形成された雇用慣行は社会規範・価値観になっていて、そう簡単には変わるものではないからだという。

全体像構築の試みとあるが、最近、問題になっている非正規雇用のことは抜け落ちている。あとがきに別の著作で論じるとあった。是非、このテーマに迫ってほしい。（青）

編集後記

この仕事を始めると同時に編集長の眼で小さなコラムを始めました。準備期間もなく、M&Aの素人が、神をも恐れぬ所業と思いながら、とにかく「箱」をつくって、スタートしたのです。当時は、読者数も少なく、こんな無謀が許されたのだと思います。しばらくして番号をつけました。100本を目指そうと。

50回を超え、60回を超え、何度もくじけそうになりましたが、いつも導きの星でした。1段だったコラムが1頁に広がり、インタビューに変わり、ページ数も増え、今の形に落ち着きました。我ながら、小さく生んで育てたと感慨もあります。これもテーブル起こしや誤記の指摘など支えてくれた仲間のおかげと感謝をしています。有終の美を飾ってやめるという気持ちも強かったのですが、今は以前いた職場で「100本書いてやっと一人前」といわれた言葉を思い出しています。（開）

本誌の記事およびデータの著作権は原則として株式会社レコフに帰属します。いかなる目的であれ当社に無断で本誌記事の複製、引用、転載等を行うことを禁じます。また、本誌記事の情報は、当社が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、完全性が保証されているものではありません。当社は本誌記事に起因して被った損害については、その内容如何にかかわらず一切の責任を負いません。乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。マール室（03-3221-4942）までご連絡ください。